

<p>教材名</p>	<p>算数→</p> 
<p>おたすけ製氷機☆10</p>	
<p>教科・領域等</p>	
<p>算数・数学 課題学習</p>	
<p>ねらい</p>	<p>課題学習→</p> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>100個以上の物を10ごとに数える。</li> <li>決められた数を詰める。</li> </ul>	
<p>対象とした児童・生徒の実態、障がい・行動の特性等</p>	
<p>&lt;小学部児童：算数で活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>間違いはあるが、100までの数唱がおおむねできる。ADHDのため、集中が続かない。</li> </ul> <p>&lt;中学部生徒：課題学習で活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10までの数唱ができる。途中で作業の手を止めるため、物を数えて入れることへの意識が薄い。</li> </ul>	
<p>ポイント（使い方・工夫した点・支援について等）</p>	
<p>&lt;算数：収穫した大豆が何個あるか数えよう！&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>100までの数の表を活用し、10ごとにシールを貼っていくことで、どこまで数えたかが視覚的にわかるようにした。「10までを数えるのみ」「製氷機に入れるので転がらず数えやすい」という利点から集中力が続いた。塞いだ部分は持ち手として使えた。</li> </ul> <p>&lt;課題学習：おはじきのパッキング&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年からビー玉を不安定な治具の上に置いて10個数える課題に取り組んでおり、数えたり容器に入れたりするうちに転がるが多かった。製氷機に入れることで、確実に10個をまとめてパッキングできた。おはじきは落ちても転がりにくいので扱いやすい。</li> </ul>	
<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒机より大きいですか。 はい ・ <u>いいえ</u> )</li> <li>(具体的な大きさ： )</li> <li>特別に必要なものはありますか。(PCが使われる場合、電源など)</li> <li>( )</li> </ul>	